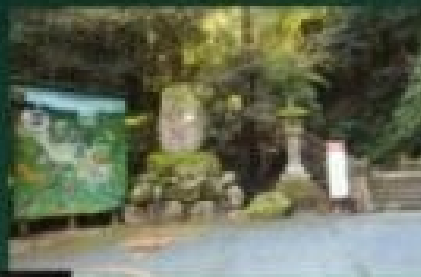


サポーターの会研修会 (2021 年度)

令和 3 年 10 月 26 日 清水寺を参拝し、精進料理をいただく



Sticで受付



清水寺に到着



参道をゆっくり上がる



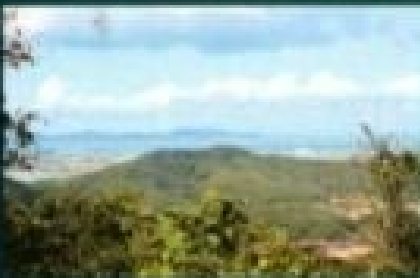
根本堂でお参り



精進料理をいただきます。お品書きは上の写真



三重塔の上から下を見ると登らなかった人が2人



展望台からは島根半島、大山がよく見えました。



紅葉には少し早かった

仁王門の金剛力士像はすごい迫力

「清水寺」は天台宗瑞光山清水寺といいます。

現在、清水寺は大門駐車場の方から上がって行きますが、本来「仁王門」が正門です。

「仁王門」は八脚門となっており、大わらじが掛かっています。



また中は格天井となっており、千社札も貼ってあります。

門に掲げてある扁額は、松平不味公直筆の書です。



仁王像（金剛力士像）は阿形と吽形の2体を一対として置かれています。

「阿吽」とは仏教の真言であり、宇宙の始まりから終わりまでを表す言葉だそうです。

昔、子供が「はしか」にかかると仁王さんの股ぐりをさせたという逸話が残っています。

清水寺散策

(N.K)

バスを降りると長い階段が始まり、快晴の中、木漏れ日を浴びながらゆっくり上る。

精進料理をいただいてひと休みした後、根本堂でそそくさと拝み、三重塔に上る人は急いで向かう。

三重塔に入ると仏像が各方向に安置されていた。狭くて急な階段にスリルを味わいつつ上り最上階へ。上から見ると幟が並んだ参道も見え、色づき始めた木々も美しい。

三重塔のそばに二基の墓があり、清水寺の開祖「尊隆聖人」と中興開祖「成縁聖人」の名が刻んである。拝んでから展望台への道へ入る。

札打ちの道として33の地蔵が順に安置してある。第十一番の地蔵のそばに「山中鹿之助の槍砥石」をみつける。想像よりも小ぶりだった。そこからしばらく歩き、展望台へ到着。大山がきれいに見え、中海や境港の街もはっきり見えていた。

そこからの下りは道も広く整備され、すぐに仁王門に到着。仁王さん用の大草鞋に驚きつつ写真に収める。

心地よい疲労感とともに根本堂へ戻り、土産店で抹茶をごちそうになり、充実感を感じつつ帰途についた。



山中鹿之助の槍砥石



開祖と中興開祖の墓碑



展望台からの大山



仁王門

～清水寺を参拝し、精進料理を味わう～



参道入口の案内図



参道



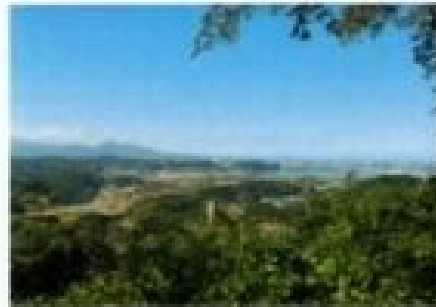
土産店前の広場よりの本堂



稲荷神社への朱の鳥居



三重塔



展望台よりの眺め



本堂前の大杉



精進料理

晴天に恵まれ、三重塔からの眺めも素晴らしく最高の研修日となりました。

清水寺は、清浄な、心静かになる寺でした。

安来市には、2本の主要な河川が南から北へ流れ、中海に入ります。この2本の川沿いに清水寺、尼子の広瀬城跡、松平藩の分家跡の母里地区等があり、さらに隣り合わせの米子市、西伯町があり、一体として素晴らしい地域です。学んでいくにつれて、何かが見いだせるものと思いました。

(K.K)

瑞光山清水寺

中国観音霊場28番

出雲観音霊場27番

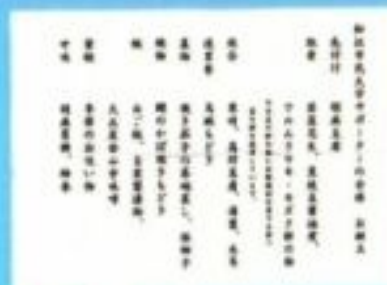
出雲国神仏霊場11番

本尊:十一面観世音菩薩

西暦587年開山天台宗

厄払いの寺として有名

(推古天皇は瑞夢に清水寺の観音、
厄払いの靈験あらたかなることを
感得され、詔を奉じて新たに本
堂を造営させた)



精進料理 紅葉館の三重塔が見える部屋で料理をいただきました。ごま豆腐、ワラビ粉で作ったイカの刺身、長芋などで造られたうなぎの蒲焼き、葛餅のデザート、果物は柿(これはオレには食べ物じゃない!) 美味しくいただきました。他にも「ごま豆腐とそばセット」、「出雲そば割子3段」などのメニューがあった。

三重塔に登り、回廊に出ると遠くに高山を望むことが出来た。三重塔拝観後は、三十三観音札打ち巡路を巡って歩いた。10番観音の手前に山中鹿之助が槍を研いだとされる石が遺されていた。頂上の展望台からは北・東の方向の眺望が開けていた。

下りの巡路はやや広い林間コースで20分ほどで仁王門に着いた。仁王像は体が赤、衣が緑に彩色されていた。約1時間で根本堂へ戻り、御朱印をいただいてお参りは終わった。



三重塔の上から



中興開山盛縁上人、開祖尊隆上人の墓



鹿之助槍砥石



展望台で記念撮影



三十三観音札打ち巡路



仁王門と仁王像



展望台からの眺望 左から 島根半島 美保関 手前:安来市街 奥:米子市街 孝霊山 船上山 矢箸ヶ山 大山

R3.10.26 (S. K)

～瑞光山清水寺～

…堂々たる規模を誇る天台宗の古刹…



5万坪余りの境内には数多くの重要文化財が存在する



杉木立の中、参道を登る



千年杉に囲まれた根本堂、遙か左奥に三重塔を臨む



山陰で唯一の三重塔



三重塔の最上階からは、中海や島根半島まで見渡せる

合掌礼拝



2021年10月26日 (Y.S)

令和3年サボタリ会 研修会

「清水寺を矢張り拝し

精進料理を味わう」

松江に生まれ育った私にとっては
「安来り清水さん」と言えど、子供の
頃より親しみ深いお寺です。

岩不動さんに午を合せて進み、大内
と潜ると縁深い参道には石段が絶え
見上げると神聖な空気を感ぜよ。

紅葉館の精進料理は彩りも良く
料理の食前の意外な擬きを知り、案
じみはかう美味しくいただきます。

食事の後は更に進み、明治33年建立の
国指定重要文化財の根本堂（清水
寺の名の由来である井戸が有り
今も聖水が湧き湧き出ています）へ。

そしてその奥には1859年に33年より年月
を費やして完成したと言われる三重
の塔が有り、ここの登拝拝観は小学
う折が最初で、今日は二回目でした。
見下ろす眺望は素晴らしく、軒下
彫り物は大らか且つ威厳があり、良
く保存されておると感じました。

今回研修は

目にも
心にも
お腹にも

満足り一日でした。

(Y・S)



令和3年度サポーターの会研修会
出雲国神仏霊場 11 番・中国観音霊場 28 番
～清水寺を参拝し、精進料理を味わう～

(K.S)

清水寺は、用明天皇 2 年（587 年）に尊隆上人によって開かれたお寺で、推古天皇の勅願以来厄払いのお寺として、山陰の観音信仰の霊場として、広く信仰を受け多くの参拝者が訪ねている。

10 時に市民活動センターを出発し、11 時前に大門駐車場へ到着。マイクロバスと徒歩のグループに分かれて、紅葉館に到着。精進料理をいただく。解説書を見て感心しながら温かい料理とデザート頂く。

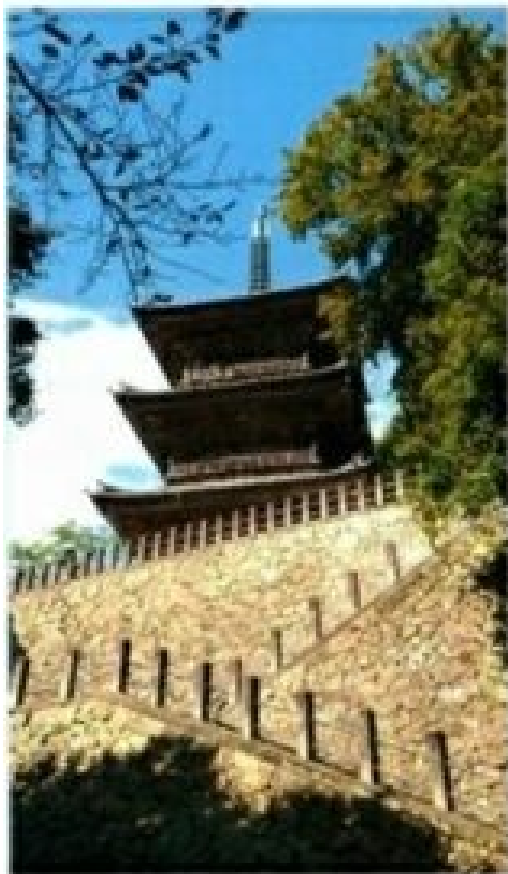
1 時から 3 時の集合時間までが、清水寺の散策時間。山内の根本堂、三重塔、稲荷社、仁王門、大門、札打ち巡拝路、展望台へと足を運んだ。

三重塔は、初めての拝観。鍵を開けていただく関係で、1 時に集合。狭くて、暗くて、間隔の大きい階段を、気を付けて登る。最上階からの眺めを楽しむ。松江からは東に見える寝仏山（嵩山と和久羅山）が北西の方向に僅かに起伏を見せている。

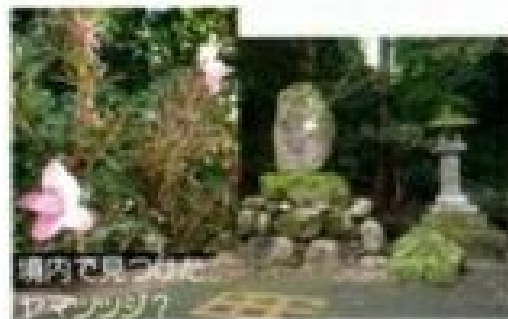
足元に注意しながら降りていく。

右に展望台へ続く道があり、陽差しも明るいので向かうことにする。山道は木の葉がいっぱい。時々落ち葉を掻き分けた穴ぼこが！「猪がみみずを採っている」と K さん。木漏れ日が斜面の木々にもしっかりと届いている。思ったより早く頂上にたどり着く。春なら桜のお花見もできそう。はるかに大山が望め気分爽快。さあ帰路は？仁王門に向かう道を降りることになり、合流した 4 人でいざ！下りは少し軽快かも。仁王門に寄って、稲荷社、根本堂に参拝して、少し休憩。お土産屋さんでお抹茶頂く。お目当てのお土産を買って。いよいよ帰る時間。石段を歩いて、大門をくぐり、大門駐車場へと下りていく。とてもいい天候に恵まれた秋の一日に感謝！





「三重塔」はやはり清水寺のシンボル！ 33年かけて完成したとか。登楼した人たち眺めはいかが～



安来清水さん へ行きました

サポーター研修会
2021.10.26 (火) (Y. N)



「清水稲荷社」へ続く朱の鳥居。なかなか良い！社の周りにはほっかむりした狐さんがそれぞれにもの思い…



石段を上る前に、まず、清水羊羹の試食へ・・・

とても愛想の良かった深田豊隆堂さん！ 帰りに沢山お土産を買いました。紅葉には早かったものの晴天に恵まれ、散策途中厄ばらいか、住職の声も遠くに聞こえ、清々しい秋日和。古刹をゆっくり眺め、紅葉館でやさしい精進料理をいただき心安らぐ有意義な1日でした。



「宝蔵庫」

一般公開は4月末～5月初めと11月初旬の年2回。重要文化財6体ほか多数納めてあるのに、壁も周辺も荒れているのが気になります。

秋の清水寺を歩く

瑞光山清水寺が正式名称。

用明天皇2年(587年)、尊隆上人により開かれたといわれている。

縁起を調べてみると開創当寺の宗派は不明であるが、承和14年(847年)11月比叡山の慈覚大師円仁が唐留学の帰路に立ち寄られ、秘密大灌頂光明真言の秘法(儀式)と精進料理(現在の清水精進料理、清水羊羹の元)を伝習される。

これを機に天台宗となり比叡山延暦寺を本山とする。

以後天台密教を修法する祈祷寺として今日に至るとある。

取材力や編集力をつけるための研修会で、紅葉を伝えようと11月の声も聞かれる晩秋の安来の清水寺に出掛けた。

「大山の紅葉が麓に降りてきて清水寺の紅葉が始まる。大山の紅葉を見れば清水寺の紅葉時期がわかる」と、土産物店の方が話していた。

今年は大山の紅葉が遅れ気味なので、

清水寺の紅葉もその後2週間後くらいだそうで、モミジの葉先がようやく色付き始めたところ。

昼食は精進料理を戴いた。

生臭ものは一切使わずに、本物らしい味や香りをつける技に感心させられた。

白御飯も炊き加減がホックリと柔らかく好評だった。



食後は、今までは外から見上げるだけだった三重塔へ登閣。塔の中は狭く急な階段が続く。

しかし苦勞して登った最上階の濡れ縁の回廊に出ると、晴れて爽やかな風の元、遠くに中海を望む絶景を堪能した。



清水寺霊場の一例

2021年11月9日

(C.H)

清水寺は、出雲国神仏霊場第11番、出雲国観音霊場21番、中国観音霊場28番であるという。今回10月26日のサポーターの会研修会で一つの石碑を目にしたので報告します。

石碑は、仁王門から手水舎に下る間にあり、文字は次のように読める。

(中央) 南無大慈悲観世音

(右側) 清水寺霊場月参満五十年記念

(左側) 米子市 松浦徳次郎 昭和五年

米子に住んでおられた松浦さんという方が、明治15年ごろから清水寺に月参りをはじめ、満50年経ったのを記念して、昭和5年にこの石碑を建立されたということがわかる。かなり立派な石碑ですので、世間的にも成功された方であろうと推測されます。当時の人々の信仰心、あるいは霊場の意味というのは、今のわたくしたちには理解が難しくなっていることは確かなようです。



清水寺について

(A・H)

○石段を彩る幟



キヨミズさんはご利益があるということから様々な人々や会社が願い事を書いている
第一に「商売繁盛」、第二に「病氣平癒」、第三に「家内安全」が多いらしい。
現世利益を願うことから深まっていく信仰といえる。

○三重塔

高さ 33 メートル、総ケヤキ造りで江戸時代末期の安政 6 年、安政の大獄が起こり、日本の大変動期の中建立された
しかも権力者の発願ではなく、信徒の力だけで建てられたという。いかに多くの人々の信仰を集めていたかがよくわかる。苦勞して登った塔からの眺めは素晴らしかった



○根本堂



現在の清水寺の建物の中でもっとも古く室町期のもの
裏側の井戸から絶えることなく清らかな水が湧き続けていて、清水寺の寺名もここに由来するという
本尊は「十一面観音」で秘仏である

○清水羊暮

清水寺が開山した 260 年後に唐から帰国した慈覚大師円仁が立ち寄り、つくり方を伝授したという。円仁は山陰一帯を行脚したので、三佛寺や大山寺、鰐淵寺などこの地の古刹の多くが天台宗になったのだという



○護摩堂



正面に「不動明王」その隣に「蔵王権現」が安置されている
山岳修験の道場としての雰囲気がある

最後に

晴天に恵まれ気持ちよく散策することができた。近くにありながら今まであまり深く知ることのなかった清水寺の魅力に気づけるよい機会となった

サポーターの会 研修会

令和3年
10月26日

まつえ市民大学・サポーターの会の研修会が、11月26日に開催され13人が参加し、安来の清水寺へ出かけた。もみじ、イチヨウの紅葉は少し早かったが、静かな境内を散策し、根本堂、三重の塔など見学。長い歴史を肌で感じる事ができた。

清水寺へ出発

松江市市民活動センターをバスで出発し約1時間弱で清水寺の大門駐車場へ到着した。バスは2人掛けの座席を1人ずつでゆったり座り、換気、手のアルコール消毒を行い、コロナ対策万全だった。昼食の「紅葉館」へ向かう。徒歩の人と迎えるバスとに分かれて出発。私はもちろんバス。山道の裏を通り、大きな草履がある仁王門から、境内へ入り到着。昼食まで散策した。

紅葉館で精進料理

精進料理は、仏教の「不殺生」の思想から、肉や魚を食べることを禁ずることから生まれた。

清水寺の精進料理は懷石料理と見紛うような特徴があるとのこと。では、早速「いただきます」



→胡麻豆腐とゆで落花生、黒枝豆ツルムラサキとモズクの酢の物



烏賊もどき



鰻のかば焼きもどき



焼きナスの茶碗蒸、振柚子

食事をした部屋からは、三重の塔も遠望でき楽しく、おいしくいただきました。

瑞光山 清水寺



境内の下から本堂を見上げる。大きな千年杉に圧倒される。奥には三重の塔も見える

清水寺は1400年前、用明天皇即位2年(587年)尊隆上人に開かれた観音霊場。栄枯盛衰繰り返し、戦国時代には戦火に会い焼失。松江藩主や、毛利家の庇護を受けて復興し現在に至る。



3層まで登れるのは唯一ここだけだそうです

三重の塔は文政9(1826)年恵教の発願により、棟梁・富谷寛太によって起工、33年後の安政2(1859)年に完成した。



清水稲荷の朱の鳥居



清水稲荷で拾った銀杏

安来の清水寺は、今から千四百三十四年前、用明天皇二年（五八七年）に観音像の草庵を結び、推古五年（五九七年）推古天皇の勅命で伽藍をつくり、これが清水寺の起源といわれています。山号は「瑞光山」。八百八六年に最澄が開いた天台宗総本山、比叡山延暦寺より二百年以上も古いことになります。その後歳月を経て、八百四十七年、慈覚大師（天台座主円仁）が中国唐での留学の帰路、安来清水寺に立ち寄り、それまでの草庵を天台宗の寺とし、やがて僧坊四十八を数える大寺院となったのです。その慈覚大師から教えてもらった羊羹が清水寺名物となっています。

参道の石段をのぼりきると、城のような石垣の上に、樹齢千年を超えるであろう杉の巨木に囲まれて建つ堂々とした根本堂、そして背後には山陰で唯一の三重塔がそびえ立っています。パンフレットによれば、この三重塔は、幕末安政六年（一八五九年）、三十二年の歳月をかけて完成したとあります。わずかな明かりの、狭い急角度の階段を身をかがめて昇り狭い空間から外に這い出ると素晴らしい景色が広がっており、遠く中海が望めます。

三重塔裏からさらに展望台に向かってハイキングを楽しみました。出雲三十三観音霊場を模る三十三の観音石佛様に手を合わせながら四十分ほどで展望台に着きました。途中、山中鹿之介の槍研ぎ石は、表示もなく、地面に同化していて、見つけにくかったです。展望台からは、眼下に中海や、境港市の街並みが拡がり、大山、高麗山の眺めは雄大でした。

境内の旅館紅葉館では、芸術とも言える美しい彩りの精進料理をいただきました。

清水寺には、仏教の「不殺生」の教えから、肉や魚を一切使わない精進料理が受け継がれています。この日のメニューは、白胡麻と吉野の本葛の胡麻豆腐。焼き茄子の茶碗蒸し。茹落花生、黒枝豆、ツルムラサキ、モズクの酢の物。炊合は寒竹と高野豆腐。わらび粉で作ったイカもどきのお造り。鰻の蒲焼もどきは木綿豆腐、長芋、じゃがいも、小麦粉、海苔で整形し、油で揚げて蒲焼にしてあります。デザートは胡麻葛餅、柚香でした。まさに豪華懐石料理を堪能しました。

